

ドッジボールのできごとから (2年)



ゆうしゅうしょう
優 秀 賞

ひる^{やす}休みにともだちとドッジボールをしていた^{とき}時のことです。あるともだちが、ボールをなげていたけれどなかなか^あ当てられませんでした。すると、同じチームの^こ子が「^あ当てろや。」となんどもつよく^い言っていました。言われていたともだちは、^い言いかえさないで^{いっしょう}一生けんめいに^あ当てようがんばっていました。ぼくは、そんなことを^い言うのはおかしいので、「^い言うのをやめさせないと。」と^{おも}思いました。けれど、ぼくはなにも^い言えませんでした。

このことが、ずっと^{こころ}心にひっかかっていた。ぼくが、つよく^い言うのをやめるよう^い言う^いとけんかになっていたかもしれない。それに、どんな^い言い^{かた}方がよかったのかも^わ分かりません。でも、いやなことばを^きだまって聞いていることは、^{じぶん}自分も^{おな}同じことを^{おも}思っていると思われ^{おも}るかもしれない。そうなる^いと、言われているともだちは、^{おも}どんどんかなしくなると^{おも}思います。

いやなことばを^き聞いた^{とき}時には、ゆう^き気を出してやめられるようになりたいです。そして、ともだちが^いがんばっていたら^ききずつける^い言い^{かた}方じゃなくて、はげます^い言い^{かた}方をすすんでできるようになりたいです。その^{ほう}方が、みんなでのしくあそべると^{おも}思います。